

それから数日^{すうじつ}たった、ある日^ひのことです。太郎^{たろう}が漁^{りよう}に出^で

るために浜辺^{はまべ}を歩^{ある}いていると、だれかが声^{こえ}をかけてきます。

①「太郎^{たろう}さん、太郎^{たろう}さん。」

しかし、あたりに人^{ひと}はいません。なんと、声^{こえ}をかけてくる

のは、あの日^ひたすけてあげたかめでした。

「太郎^{たろう}さん、このあいだは、たすけていただいてありがとう

ございます。ぜひ、おれいがしたいので、私^{わたし}のせなかにの

っていただけませんか。」

問ー ①のことを言^いたのは だれ

でしょう。

ア かめ

イ さめ

ウ うめ

エ こめ

「
」

太郎は、言われるままに、かめのせなかにのりました。

かめは太郎をせなかにのせて、海の中をおよいでいきま

す。色とりどりのさんごの林を通りぬけると、やがて海の

そこに、きらきらかがやくごてんが見えてきました。

「太郎さん、あれが竜宮城です。」

太郎は、見たこともない、美しい景色に目をうばわれて

います。

竜宮城へ入ると、これまた美しい乙姫さまが太郎を出

むかえます。

「浦島太郎さん、ようこそいらっしやいました。どうぞごゆ

問2 竜宮城はどんなところに

ありますか。

ア 家のきんじょ

イ 山のとっぺん

ウ 空のうえ

エ 海のそこ

「」

「つくり楽しんでいってください。」

太郎は、竜宮城で、楽しい毎日をすごすことになりました

た。美しい魚たちのおどり、おいしいごちそう、乙姫さま

との楽しいおしゃべり。毎日がまるで夢のようでした。

しかし、日がたつにつれて、太郎は村にのこしてきたお母

さんのことが気にかかるようになってきました。

②「お母さんのことが、しんぱいではありません。いちど、村

へ帰りたいたいです。」

乙姫さまは、さびしそうな顔をしましたが、太郎が「どう

しても帰りたいたい」と言うのをひき止めることができません。

問3 ――②で、浦島太郎が 村へ

「帰りたいたい」と言いましたが、それを聞

いた乙姫さまは、どんなきもちになっ

たでしょうか。

ア うれしい

イ さびしい

ウ くやしい

エ はらがたつ

「 」

「しかたがありません。では、太郎さん。この玉手箱たまてばこをお持ちもちください。でも、どんなにこまったことがあっても、けっしてこの箱はこをあけてはいけません。」